

望ましい集団活動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の在り方

～児童が主体となる児童会活動～

日立市立滑川小学校

1 はじめに

所属集団の一員としての自覚をもち、学校生活を向上・発展させるため自主的に活動していく態度を育てることを目標に、児童会活動の支援を行ってきた。特に本校の児童は自己肯定感がやや低いいため、児童の達成感を味わうことができるよう活動のRPDCAサイクル化を図った。そして、徐々に子供たちに任せていくように活動を計画し、実践した。

2 資料

(1) 実践事例

ア 集会活動

運営委員会が中心になって行う集会活動として、「1年生を迎える会」「創立記念集会」「合奏団を励ます会」がある。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、「1年生を迎える会」「合奏団を励ます会」は中止となった。「創立記念集会」については「創立記念週間」として密にならないように配慮して、校内放送を活用して実施した。また、今年度から人権週間と併せて、運営委員主体の「いじめゼロ集会」を実施した。



↑いじめ0スローガン発表



↑運営委員による劇「いじめをなくすには？」



※高学年ブロックは実際に劇を行い、小中学年ブロックは録画したものを体育館で視聴した。

イ さわやかマナーアップ週間

教師は児童会活動の始めに「どんな学校にしたいか」という問いかけをし、子供たちから「挨拶ができる」「笑顔のあふれる」「安心して過ごすことができる」学校にしたいという願いが出てきた。そのため挨拶運動では、挨拶をすることだけを呼びかけるのではなく、段階的に言葉遣いや感染症予防など様々な活動を組み合わせ取り入れていった。活動時の振り返りにも重きを置き、「課題」をどのように解決していくのかを考えていった。



3 成果と課題

- 集会活動は教師主導の計画ではなく、自分たちで考えて主体的に行動するようになった。中休みや昼休みの短時間でも効率よく動こうという意識が高まった。
- 挨拶運動を通じて、学校への所属感が高まり、より良い集団になろうという意識が高まった。また、自分たちの活動が学校を変えていくことができるという充実感を得られ、自己肯定感が育ってきた。
- 児童たちをその気にさせる教師の働きかけ（意欲付けと称賛）が大切である。これらの活動を継続、発展させていくには、全職員が特活の目標を再確認して、共通理解のもと、連携して取り組んでいく必要がある。